

小學作文全書

文學社編纂

二

卷貳

文學社編纂

書中動植礦理化地文經濟生  
理等八遠回各專門博士或學  
士校訂ヲ經猶假名遣是正云

三 刻

小學作文全書

全六十冊

東京大阪 文學社刊行

小學作文全書卷之二

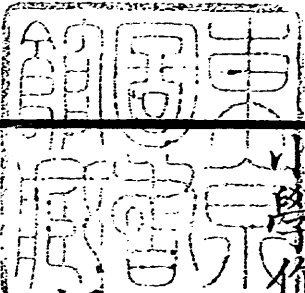
文學社編纂

短句之部

教授法

教則綱領ニ曰ク近易ノ庶物ニ就キテ其ノ性質等ヲ  
解セシメ之ヲ題トシ近易ノ漢字ヲ交ヘテ短句ヲ綴ラシム

短句ノ教授法ハ第一卷ニ於テ既ニ作例ヲ舉ケ  
テ其ノ要ヲ示シタリト雖モ猶重復ヲ厭ハス此  
ノ卷ニ復之ヲ舉クルモノハ則鄭重ヲ加フルノ  
意ニシテ彼此卷ヲ別ニシ加之此ノ卷ニ至リテ  
ハ近易ノ漢字ヲ交フルノ異アルヲ以テ更ニ教



小學作文全書卷之二

授法ノ要領ヲ示スモノナリ而シテ教師執鞭教授スルニ當リテ已ニ第一卷ニ於テ述ヘタル如ク實物若クハ模品又ハ圖畫ヲ用井ルヲ必要トス即實際授クルニ際シテ教師能ク之ヲ熟視セシメ其ノ名稱性質効用等ニ就キテ先生徒ノ知リ得タルコトハ自語ラシメ或ハ之ヲ誘助シテ語セシメテ以テ教授センコトヲ要ス其ノ例左ノ如シ

〔金も石もかたし〕ノ題ヲ授クル例

□符ハ教師ノ問ニシテ△符ハ生徒ノ答ナリ

教師金ト石トノ二品ヲ携ヘ來テ生徒ヲシテ能ク視察セシメテ後問ヒテ曰ク此等ハ何ナリヤ△カ子トイシトナリ□幾個ナリヤ△二個ナリ□二個異ナリヤ△否同シナリ□如何ニ同シキソ△カ子モイシモカタケレハナリ□其ノ二物ヲ取りテ衆生徒ニ示シテ問ヒテ曰ク誰ハ之ヲカ子モイシモカタシト云ヘリ然リヤ否△皆曰ク然リ□今ノ言ノ如シ然レ凡是會話ノ體ナリ若シ文章ニ綴ルトキハ如何ニ改ムヘキソ△カ子モイシモカタシ□然

リ〔數名生徒ヲシテ反覆セシメテ後全級生徒ヲシテ習熟セシム〕□今語リタル如ク文字ニテ書スルコトヲ得ルヤ先「金」石ト書スヘシ〔某一名ノ生徒ヲシテ來テ黑板ニ書セシム〕△之ヲ書ス〔知ラサレハ教フ〕□然リ〔數名ノ生徒ヲシテ讀ム且講セシメテ以テ全級ニ及フ〕□黑板ニ書シタルヲ拭ヒ去リテ各自ノ石板ニ諳ニ之ヲ書スルコトヲ習練セシム

### 漢字交短句

#### 第一

花 <small>はな</small> 葉 <small>は</small>	幹 <small>みき</small> 枝 <small>えだ</small>	本 <small>ほん</small> 紙 <small>かみ</small>	石 <small>いし</small> 綿 <small>わた</small>	山 <small>やま</small> 川 <small>かは</small>
あかき	ふとまき	あつまき	たかまき	たかまき
花	幹	本	石	山
あをまき	ほろまき	うすまき	かるまき	ふかまき
葉	枝	紙	綿	川

雪ゆき。墨すみ。

しるき。雪。くるき。墨。

第二

字ト。本ほん。

字をかき。本をよむ

棹さ。櫓ろ。

棹をさし。櫓をこぐ

花はな。月つき。

花をながめ。月をみる

墨すみ。筆ふで。

墨をすり。筆をもつ

獨樂こま。凧たこ。

獨樂をまはし。凧をあぐ

毬まり。羽子はね。

毬をなげ。羽子をつく

第三

内うち。外うそ。

内にいり。外にいつ

机つくえ。椅子いす。

机にむかひ。椅子による

山やま。谷たに。

山にのぼり。谷にくだる

春はる 秋あき

船ふね 車くるま

池いけ 木き

犬いぬ 猫ねこ

烏からす 鷺さぎ

春にまな。秋につき

船にほ。車にあ

池にうを。木にとり

第四

犬はつよく。猫はよわ

烏はくろく。鷺はしろ

桃もも 梅うめ

薑しょうが 蜜みつ

夜よる 晝ひる

繩なは 絲いと

見み 聞き

桃はあま。梅はす

薑はからく。蜜はあま

夜はくらく。晝はあ

繩はふとく。絲はほ

第五

見てしり。聞きてたほ

往ゆき還かへる

上のぼる下くだる

車くるま馬うま

耳みみ目め

鰭ひれ翼つばさ

往ゆきてならん。還かへりてさらふ

上のぼりてながめ。下くだりてみる

車くるまにてゆき。馬うまにてかへる

耳みみにてき。目めにてみる

鰭ひれにておき。翼つばさにてとぶ

第六

石せき板ばん石せき筆ひつ

松まつ竹たけ

日ひ月つき

雪ゆき鷺さぎ

船ふね車くるま

羽はね毛け

石せき板ばんと石せき筆ひつとはかた

松まつと竹たけとはあを

日ひと月つきとはまる

雪ゆきと鷺さぎとは

船ふねと車くるまとはは

羽はねと毛けとは

第七

金かね石いし 櫻さくら牡丹ぼたん 水みづ氷こほり 金魚きんぎょ鯛たひ 薑しょうが山葵わさび

金も石もかたし  
 櫻も牡丹もうつし  
 水も氷もつめたし  
 金魚も鯛もあかし  
 薑も山葵もからし

山やま峯みね

山も峯もたかし

第八

瓜うり茄子なす

瓜はあをくして

茄子はくろし

梨はあまくして

梅はすし

梨なし梅うめ



火ひ水みづ

春はる秋あき

鶴つる雀すずめ

火はあつくして  
水はつめたくして  
春はあたかにして  
秋はすくしくして  
鶴はねほましくして  
雀はちひさしくして

金きん銀ぎん

稻いね田た

菜な畑はた

魚うを水みづ

金はまにしくして  
銀はいろしくして

第九

稻は田につくり  
菜は畑にうゆ  
魚は水にをり

獸野けだもの

松山まつやま

梅庭うめには

馬人うまひと

牛荷うしに

獸は野にすむ

松は山にしげり

梅は庭にさく

第十

馬は人をのせ

牛は荷をはこぶ

錢瓶湯せんびんゆ

土瓶茶どびんちや

犬夜いぬよ

猫鼠ねこねずみ

錢瓶は湯を煮

土瓶は茶をにる

犬は夜をまもり

猫は鼠をとる

第十一

池魚いけうを

池に魚をかひ

籠かご鳥とり

籠に鳥をかぶ

花瓶はながめ花はな

花瓶に花をいけ

香爐かうろ香かう

香爐に香をたく

頭かぶり帽ぼう

頭に帽をかぶ

足あし靴くつ

足に靴をはく

第十二

雙紙さうし字じ

雙紙にて字をならぶ

筭盤そろばん數かず

筭盤にて數をまなぶ

洋燈らんぶ夜よ

洋燈にて夜をてらる

時計とけい時とき

時計にて時をうる

釣瓶つるべ水みづ

釣瓶にて水をくみ

桶をけ米こめ

桶にて米をとぐ

第十三

鳥羽とりはね 魚鱗うをひれ 獸毛けだものけ 家人いへひと 園花うのはな

鳥には羽あり  
 魚には鱗あり  
 獸には毛あり  
 家には人あり  
 園には花あり

池水いけみづ

池には水あり

第十四

蟻蟲ありむし 熊獸くまけだもの 海棠花かいだうはな 雀鳥すずめとり

蟻はちひさき蟲なり  
 熊はつよき獸なり  
 海棠はうつくしき花なり  
 雀はちひさき鳥なり

桃菓もも。くだもの

桃はあまき菓なり

柳木やなぎまき

柳はあをまき木なり

第十五

本紙ほんかみ

本は紙にてつくり

衣絲きものいと

衣は絲にてねる

米升こめます

米は升にてはかり

顔鹽かほ。たらひ

顔は鹽にてあらふ

香鼻におひ。はな

香は鼻にてかぎ

刀砥かたな。と

刀は砥にてとぐ

小學作文全書卷之三

菱潭書製

小學作文全書卷之三終

明治十六年四月十日版權免許

作文全書

同十七年十一月一日再版御届

定價金七錢

同十七年十二月二日三版御届

同十八年四月出版

編纂兼  
出版發兌

文學社

發賣

文學社支店

東京本町四丁目十六番地

大坂本町三丁目十六番地